

平成 28 年 2 月 29 日

各 位

神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1  
オンコセラピー・サイエンス株式会社  
代表取締役社長 森 正治  
(コード番号 4564 東証マザーズ)  
(問い合わせ先) 取締役管理本部長 山本和男  
電話番号 044-820-8251

腎臓がんに対する TOPK 阻害剤「OTS514」と MELK 阻害剤「OTS167」の有効性に関する  
論文公表のお知らせ

当社の TOPK (T-lymphokine-activated killer cell-Originated Protein Kinase) 阻害剤 OTS514 と MELK (Maternal Embryonic Leucine-zipper Kinase) 阻害剤 OTS167 に関して、新たに生物学的に重要な働きが見つかり、共同研究者のシカゴ大学医学部・中村祐輔教授のグループと当社の研究グループによって論文が公表されました。

TOPK と MELK はともに、腎臓がんを含む多くのがん種で発現が増加しており、その一方で正常臓器での発現がほとんど認められないことが知られています。現在当社は、OTS964、OTS514 の TOPK 阻害剤の非臨床開発を進めるとともに、MELK 阻害剤 OTS167 の臨床試験を米国及びオーストラリアにおいて実施しております。なお、OTS514 は、OTS964 に構造が非常に近い類縁の化合物です。

今回共同研究グループは、腎臓がん細胞において、二つの阻害剤が、FOXM1 (forkhead box protein M1) というがん幹細胞に重要な転写因子の発現をも抑制することを明らかにしました。本研究において OTS514 と OTS167 は、TOPK、MELK、FOXM1 の発現を抑制し、腎臓がん細胞の増殖を阻害することが示されました。さらに、併用によって OTS514 と OTS167 が相加的に働き、腎臓がん細胞に対する非常に強力な増殖抑制効果をもたらすことが示されました。

当社は、本論文研究成果に基づいて、TOPK 阻害剤の開発スピードをさらに速めるとともに、OTS167 のさらなる臨床開発計画を検討して参ります。

なお、本件による当社の今年度業績への影響はありません。

本論文は、に Oncotarget 誌にオンラインで公表されております。

(<http://www.impactjournals.com/oncotarget/index.php?journal=oncotarget&page=article&op=view&path%5B%5D=7755>)

以上